

# 令和4年度 第2層協議体 ～嘉麻市における地域の課題～

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会  
総合相談・地域づくり推進係  
係長 小川 史佳

# 協議体の開催状況

行政区長からコロナ感染者増加のため  
中止の申し出があったため中止

積雪のため中止

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
稲築西	5	11	16	中止	5	6	7	14	4	13	81(人)
稲築東	11	20	10	11	12	14	6	10	12	5	111(人)
碓井	11	6	9	2	8	5	9	7	7	中止	64(人)
山田	7	10	6	5	9	7	8	7	6	中止	64(人)
嘉穂	6	10	7	10	5	6	5	4	8	4	65(人)

# なつきちゃんひがし（稲築東校区）

- 平東行政区・・・交通政策課の出前講座を受講したのち、役員が集まってバス新聞を作成し、平東行政区の全世帯に配布した。
- 銭代坊行政区・・・ゼンリンの地図を使って、一人暮らしの高齢者や空き家などを色分けし、見守り活動について考えた。サロンのメンバーを中心に、仕組みづくりに向けて検討中。
- 鴨生町行政区・・・地図を作成したのち、誰が誰に声かけをしているかをチェックした。個々の活動を組織化するために話し合いを続ける予定。
- 鴨生北町行政区・・・災害に備えた地域づくりについて本会の出前講座を行ったのち、協議体で地図作りを実施。要配慮者リストに上がった方々の状況把握が課題に上がった。

# なつきちゃんにし（稲築西校区）

- **春行政区**・・・交通政策課に協力してもらいバスのルートを地図に落とし込み、市バスや西鉄バスの利用について共有したのち、買い物に困っている人たちでデマンドバスを利用した買い物ツアーについて検討中。
- **山野第一行政区**・・・山野第一ネットワーク委員会のメンバーが高齢化し、今までのように活動できなくなったとの課題があり、地図を使って訪問しているメンバーや気になる方を見える化した。行政区内で活動を広げるための方法について検討中。
- **樋渡行政区**・・・サロンや老人会に参加している高齢者の把握はできているが、転入してきた世帯や樋渡団地の住人については、把握できていないことがわかった。課題や心配なことはないとの意見がほとんどだったが、過去に水害が多く発生していることから、いざという時の声かけや見守りは必要ではないかと投げかけたところ、お互いを知るために顔の見える関係づくりについて話し合うことになった。
- **稲築地区**では、地域の様々な福祉ニーズを自分の身近な問題としてとらえ、顔の見える関係づくりを進めるには、行政区の公民館を使用して協議体を開催した方がよいのではないかと考えている。行政区長会へ出向き、意向確認書を配り協力を求めたところ、27行政区中19行政区から回答があり、18行政区の協力が得られることになった。

# 嘉麻い隊うすい（碓井校区）

- 上臼井東行政区・・・全世帯（104）が行政区に加入。大雨や台風の際は自主防災組織メンバーが、高齢者のみの世帯20軒に声をかけ、安否確認や避難誘導を行なっている。また、道の駅やドラッグストアがあり買い物には困らないが、碓井校区外への病院受診等の移動が不便との声上がり、時刻表を確認したところ、帰りは乗り継ぎやタクシー等を併用せざるを得ないことが分かり、デマンドバスが活用されていないことがわかった。
- 飯田行政区・・・認知症のAさんの見守り活動について話し合った。特定の近所の方に負担が生じており、Aさんに対する厳しい意見が上がり、見守りの仕組みづくりは簡単にいかないと感じた。
- 昭嘉行政区・・・市バスの時刻表を調べるのが難しいとの意見があったが、参加者の中に調べるのが得意な方がおられ、困ったときには相談に応じてくれたり、一緒に乗ってくれることになった。
- 光代行政区・・・塚田集会所付近には、高齢者世帯が15軒（うち1人暮らしが5軒）、空き家が4軒あり、今後は高齢者や要配慮者の見守り活動をどのように行うか話し合うことになった。
- 笹原行政区・・・協議体から生まれたラジオ体操は継続中。グランドゴルフやおしゃべりも楽しんでいる。バス停が坂の途中にあり、不便との声があった。

# あっとふるやまだ（山田校区）

- 交通の便が悪いと言われている行政区毎にバス新聞づくりに取り組んだ。文字の大きさや紙面割り等を工夫し、見やすいように考えた。裏面には地域のお得情報（商工会議所の買い物代行サービス配達サービスを実施している商店、NPO法人ふれあい広場上山田駅など）の情報収集を行った。また、市バスやデマンドバスから桂川町の買い物・通院バスに乗り換え、桂川町や飯塚市方面へ行くことができないか調べたが、病院の受付時間やデマンドバスの運行開始時間が合わず、難しいことが分かった。
- 山田校区は昨年度からあんしんカードの作成に活発的に取り組んでおり、今年度は木城と神幸行政区のサロンの出前講座で一緒にあんしんカードを作成した。一緒に作ることでその方の安否確認の状況をサロンのメンバー同士で確認でき、気にかける関係が自然とつくれる雰囲気になった。
- 現在は、地域で気軽に取り組める見守り活動について、協議体メンバーと話し合っており、どんな人が地域で気になるのか、見守る側も見守られる側もお互いが安心できるつながりづくりとは何かを一緒に考えています。

# 嘉穂ますます会（嘉穂校区）

- 移動をテーマに話し合っていたが、令和4年5月に参加者でお試しの市バス乗車体験を実施し、嘉穂校区に特化したデマンドバスのチラシを作ったことで、移動については一旦終了し、今年度は地域の見守りについて話し合った。
- 下牛隈行政区の協議体で、600世帯のうち組に加入しているのが400弱世帯しかなく、加入率の低下が課題となっている。夏には1人暮らしの方がエアコンの適切な使用ができずに熱中症になったケースがあったとの話があり、校区では見守りの方法を話し合うことになった。その中で、地域の誰もが意識を変えるだけで、緩やかな見守りができるとの気付きがあった。お互いに気にかけて合うつながり方について意見を集約し、見守りのポイントをまとめ、地域の方と共有できるものを作っていくことにしている。

# 地域力の課題

- 行政区によって状況は異なるが、行政区に加入しない世帯が増えており、加入率が4割を下回る行政区もある。若い人たちは仕事があることを理由に促しても加入してもらえない。役員をしたがらない人がほとんどで、同じメンバーが続いているとの声が多く聞かれている。
- 私たちは「災害時やいざという時には、地域の助け合いが大切だ」と言いながら、この状況を改善するために何ができるのか悩んでいる。



# WinWin事業のとりくみ①

## ★就労的活動支援コーディネーターの役割

- 民間企業や団体等と連携しながら、高齢者等が特技や経験をいかして社会参加ができるようコーディネートする

## ★活動に参加する方

- これまでの経験や特技などをいかして社会とつながりたいと思っている方
- 自宅中心の生活から一歩踏み出したいと思っている方
- ボランティア活動保険に加入

# WinWin事業のとりくみ②

## ★活動の実績

- 昨年同様20施設を回り、5施設から前向きな回答  
(庭木の剪定、花壇の整理、洗車など)
- コロナの影響で受け入れが難しい。
- 施設と地域住民2名のマッチングを試みたが、実施には至らなかった。

# 協議体を進める中で

- 「地域のつながり」「住民主体」「自助・互助・共助」
- いざという時は、地域のつながりが大切であるということはわかっているけれども...
- 個人主義、家族形態の変化、高齢化率の上昇、行政区への加入率の低下、関係の希薄化、
- 果たして... このままで地域力を高めていけるのか  
例えば、小地域エリアの見直し  
イニシアチブを持った働きかけ  
福祉教育などなど

# Aさんの支援を通して

- 親族がいない、いたとしても様々な理由から関係が壊れている。亡くなったと連絡しても、生前の関係を理由に関わりを拒否。
- 入院時の身元保証人や亡くなった後の事を親族に担ってもらえず、やむを得ず直葬という形をとらざるを得ない方が増えている。
- 「成年後見の事務の円滑を図るための民法及び家事事件手続き法の一部を改正する法律」では、成年後見人が被成年後見人の遺体の引き取りや火葬、生前にかかった医療費や公共料金等の支払いなどの死後事務ができるようになりましたが、Aさんが利用していた日常生活自立支援事業では、このような死後事務を行うことはない。
- 納骨先が決まるまで、3人の遺骨を事務所で預かった。

# かま権利擁護センター（令和5年1月末現在）

- 日常生活自立支援事業利用者 44名
- 地域福祉権利擁護事業利用者 11名

	項目	日常(名)	地権(名)
家族について	交流している家族や親族がいない	12	4
	相続人はいるが関係が切れている	9	4
	相続人がいない・わからない	6	0
	入院時の保証人や緊急連絡先になる人がいない	11	4
死後の手続きについて	死後の手続きをする人がいる	33	8
	手続きをする人はいるが相続人ではない	2	2
	手続きをする人はいない・わからない	11	3

# Bさんの支援を通して

- アルバイトをしながら、一人で保育園に通う2人の子どもを育てるシングルマザー
- もともと家事が苦手なうえに、子育てと仕事の負担が重なり、片づける気力をなくしたことで、室内は食べ残しの食品や飲みかけのペットボトルなどが足の踏み場もないほどに散乱し、自分ではどうにもできない状況に。
- かま福祉ネットワーク委員会の協力で、部屋は片づいたものの...
- 「地域には困っている高齢者がいるのに、若いものに支援するとは何事か」と立腹するご近所さん。

# Bさんは

- Bさんはこれからも母親として、また地域の一員として生活していかなければならない。
- そのためには、子育ての相談ができたり、一緒に家事をしながら掃除や料理のスキルが身につけられるようなサービス、金銭管理やゴミ出しなどのサポートを通じて、生活力を高めていくことが最も必要。
- 関係機関によるケース会議で、今後の支援の方向性と継続的なかかわりの必要性を確認
- Bさんが自分の目標に向かって少しずつ歩んでいけるよう、情報共有しながら、関係機関で寄り添っていきたいと思うが. . .